

2. 東北（地域別調査機関：公益財団法人東北活性化研究センター）

（ - : 回答が存在しない、 : 主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (東北)	良く なっている			
	やや良く なっている	商店街（代表 者）	販売量の動き	・徐々にではあるが、物販関係の店で購買単価に上向き傾向が出てきている。ただ、一部飲食店では選挙があったためか客足は多少遠のいているようである。
		一般小売店〔寝 具〕（経営者）	販売量の動き	・カーテンや布団の仕立ての注文が途切れることがなく、品物の回転が良くなっている。
		スーパー（経営 者）	来客数の動き	・野菜や肉の相場高を客が容認しているようで、来客数、点数共に好調である。
		コンビニ（エリ ア担当）	単価の動き	・酒類の販売に関し、プレミアム系の動きが良くなっている。
		コンビニ（店 長）	販売量の動き	・競合店の閉店に伴い、それまで流動的に来ていた顧客が安定的に来店している。
		衣料品専門店 （店長）	来客数の動き	・前年と比べて秋の訪れが早く、衣替えのニーズが高まっている。前年は暑かったため11月に入ってから衣替えという方も多かったが、今年は寒いため、9、10月までクールビズという方も、クールビズを自主的に早めにやめて、秋のスーツあるいはシャツ、ネクタイを求められる方が多く、前年と比べると2週間くらい早く動いている。
		衣料品専門店 （店長）	お客様の様子	・冬物の立ち上がり早く、かつ、単価が稼げる商品の動きが例年と比較して良くなっている。
		乗用車販売店 （経営者）	販売量の動き	・エコカー補助金終了による反動減も一巡している。また、ガソリン価格の高止まり、そして、消費税増税による駆け込み需要もじわじわと加わっており、燃費の良い新型車を中心に受注、販売共に2けた前後の伸びになりそうである。
		乗用車販売店 （従業員）	販売量の動き	・消費税増税が決まったこともあり、前倒して購入する人が増えている。
		乗用車販売店 （店長）	お客様の様子	・顧客の口からも、「税金が上がる前に」という声が出てきている。政府が来年の消費税増税を発表したことが、少なからず消費マインドを刺激している。
		住関連専門店 （経営者）	単価の動き	・9月に売場変更をし、催事を行っている。顧客数はそれほど増えていないが、客単価が上がっており、販売量も若干上向き傾向になってきている。
		観光型ホテル （スタッフ）	来客数の動き	・前年に比べ来客数が約2割減少している。さらに、台風の影響や直前でのキャンセルなどもあり、かなり厳しい状況である。しかし、予約状況については、11月以降はほぼ例年どおりであり、ウィークデーの集客も徐々に増えている。
		旅行代理店（経 営者）	販売量の動き	・前年は復興需要の件で伸びていた。今年に入って落ちると予想していたが、前年同期比をみても落ちてきておらず景気はやや良い。また、他社の状況を聞いても動きは活発のようである。
		旅行代理店（店 長）	来客数の動き	・12月、1月の個人旅行客の先行受注状況が極めて良好である。
	観光名所（職 員）	来客数の動き	・チャーター便が飛んでいるため、3か月前と比べて台湾からの客が非常に増えている。これを下地に、前年を上回る乗船客数となっており、それが売上に直結し、前年をクリアしている。やや良くなっているような感がある。	
	その他サービス 〔自動車整備 業〕（経営者）	来客数の動き	・来客数、単価、販売額のいずれも、前年比、前月比共に微増となっている。	
	住宅販売会社 （経営者）	お客様の様子	・9月までの消費税駆け込みが一段落し、来春より建築を考えている顧客が動き出している。また、9月までに契約に至らなかった顧客も、年内を目途に受注の予定がある。	
	その他住宅〔リ フォーム〕（従 業員）	販売量の動き	・屋根、外壁塗装工事の受付が急増しており、今月の工事完了金額も予算を超過している。	

変わらない

商店街（代表者）	お客様の様子	・年配者は比較的アベノミクスの恩恵を受けているようだが、若年層はますます買物に関してシビアな状態であり、非常に厳しい商品選択をしている。若い人たちは通販での購入も増えており、商店街へは実物の確認のために来ているという人が年々増えているような感じがする。
商店街（代表者）	来客数の動き	・商店街の動向、来客数の調査をすると、やはり業種業態により大きな隔りがある。地元の人を中心となり、どこにもないものを出している飲食店は好調である。しかし、一般的に衣料品やファッション用品といった非飲食の個店が苦戦している。
商店街（代表者）	お客様の様子	・台風、大雨の天候が続き、来街者への足どめとなっている。小売店中心の店舗構成で、駆け込み需要のような特需もなく、前年同月を下回る売上が続き、状況は芳しくない。
一般小売店〔書籍〕（経営者）	販売量の動き	・地方の消費動向は、雇用や天候の影響からまだまだ改善の動きが見られない状況にある。
一般小売店〔医薬品〕（経営者）	単価の動き	・今年に入って良い傾向が続いており、その流れは変わっていない。今月は客単価が前年比で120円増加しているため、来客数は少し減少しているが全体的には悪くはない。
一般小売店〔カメラ〕（店長）	販売量の動き	・高額商品の動きは横ばいで推移しているものの、中・低価格商品の動きは減少傾向が続いている。
百貨店（売場主任）	来客数の動き	・ポイントデーや何かメリットがあるときは予測以上の動きがあるものの、それ以外は来客数が極めて少ない。フリー客の来店数が減っている。また、婦人服、服飾雑貨など、ファッション系の動きが悪い。
百貨店（企画担当）	販売量の動き	・秋冬の商戦に入り衣料品の動きに期待したものの、時計を中心とした高額商品の好調が衣料品のマイナスをカバーしている構図に変化はない。防寒衣料雑貨など冬のファッションアイテムは、前半は高気温と前月の優勝セールの影響などでマイナスであったが、後半に入り前年並みの動きになっている。
百貨店（営業担当）	販売量の動き	・改装工事中で売上がやや下がっているが、来客数もプラスで推移しており、購買意欲そのものに落ち込みは見られない。宝飾及び時計も引き続き好調である。今のところ消費税増税に対する駆け込み需要の動きはみられない。
百貨店（営業担当）	来客数の動き	・地方では特に景気の上向きは予想しにくい。中心商店街への来客数増加もなかなか期待できない。
スーパー（経営者）	単価の動き	・10月の平均単価は野菜の高値や加工食品等の値上げも続き、前年比では4か月ほど継続してクリアしている。また、既存店来客数はいまだ前年割れが続いているが、その幅は縮小傾向にある。買上点数も下げ止まった感はあるものの、消費改善の実感はまだない。客単価の上昇で売上を維持している。
スーパー（店長）	販売量の動き	・依然、円安の影響で輸入商品等の原材料の値上げは続いている。安さの打ち出しが難しい状況で、1品単価は前年並みだが買上点数が前年割れとなっており、厳しい状況に変わりはない。
スーパー（店長）	来客数の動き	・来客数及び販売量は変わっていない。
スーパー（店長）	単価の動き	・単価に変化が見られない。
スーパー（物流担当）	単価の動き	・販売点数、買上率は上向き傾向だが、1品単価の下げ傾向は変わらない。消費者の低価格指向とそれに対応した小売業の価格対応が続いており、景気が良くなっているとはいえない。
コンビニ（経営者）	来客数の動き	・近隣の公共事業及び工事が一段落したため、来客数が前月に引き続き減少している。
コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・今月から来客数が減少している。
コンビニ（エリア担当）	競争相手の様子	・各社出店攻勢が続き、前年割れ店舗比率が上昇している。
衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・客はギリギリまで買うのを控え、余計な商品は購入しなくなっている。
衣料品専門店（総務担当）	単価の動き	・10月は台風の影響で来客数に影響が出たため不振になっている。今回は単価を基準としたが、高額品の売上が厳しく、景気回復はうかがえない。

家電量販店（店長）	来客数の動き	・季節要因もあるが、前年に比べ客数が2割減少している。
家電量販店（店長）	来客数の動き	・来客数の動きは月を追うごとに減少している。また、単価も変わりがないため、売上は大変厳しい状況にある。
家電量販店（店長）	来客数の動き	・来客数の動きに変化は無い。
家電量販店（店長）	単価の動き	・復興需要、新築需要、消費税増税前の買換えがみられるが、特別盛り上がっている様子はない。堅実な白物家電といわれている冷蔵庫や洗濯機、エアコンは前年より伸びているし、テレビも一時の落ち込みが止まっており、微増ではあるが前年をクリアしている。
乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・新型車効果は薄れてきたものの、来春の消費税増税決定を受けての新車購入目的の客の動きは相変わらず堅調である。
乗用車販売店（従業員）	来客数の動き	・ここ数か月、新規来店客の数は変わっていない。
その他専門店〔酒〕（経営者）	単価の動き	・地元の店頭販売及び飲食店が悪化している。店頭では、単価の二極化が継続している。地元以外の都市部との仕事が増えており、全体としては変わらない状況である。地元以外への営業を強化せざるを得ない。
その他専門店〔パソコン〕（経営者）	販売量の動き	・商品の動きは変わらない。量が出るときは単価も下げられるため、利益的にも変化はない。
その他専門店〔酒〕（経営者）	販売量の動き	・飲食店への販売量は全体的に落ちている。消費者は店を今まで以上に厳しい目で選んでおり、良い店と悪い店の格差が顕著になっている。また、本格的な冬を前にして建築ラッシュを迎えている影響で、上棟式などで使用する清酒の販売量が伸びている。
その他専門店〔靴〕（従業員）	販売量の動き	・台風や雨の影響で集客が落ちている。来客数の減少が続き、客単価も下がり始めてきている。
その他専門店〔白衣・ユニフォーム〕（営業担当）	販売量の動き	・マスコミで言われているような景気回復の兆しは何もみえない。売上の的にも変わらないし、良くなるという傾向もみられずに苦戦している。単価の安い方へ流れたままで利益の確保が難しい。
その他専門店〔ガソリンスタンド〕（営業担当）	単価の動き	・相変わらず販売価格が低迷している。競争が厳しくなってきたり、収益が圧迫されている。冬場の暖房の需要期に向かい仕入価格が上がってきているが、末端価格に転嫁できない状況が続いている。そのため、収益が減少している。
その他小売〔ショッピングセンター〕（統括）	来客数の動き	・ガソリン高の影響か、自動車での来客数が伸び悩んでおり、公共交通機関での来客数が増加傾向にある。来客数は伸びているが、実際の買上にはつながっていないようである。
一般レストラン（経営者）	単価の動き	・客単価は多少上がっているが、割引券などのクーポン券を発行するとすごい勢いで使われるので、客単価は上がってきているけれども、値引き分を考えると変わらない。
一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・非常に不安定な営業が続いている。日によっては景気が良くなったのか、この状態がこのまま続くのかなと思うこともあるが、連続して客が少ない日もある。まだまだ景気が良いとはいえず、客の財布のひもは固い。
一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・暇な日と忙しい日の差はあるが、1か月のトータルでは来客数の動きは3か月前とあまり変わらない。
観光型ホテル（経営者）	来客数の動き	・10月はトップシーズンなので曜日を問わず貸切バスは入っている。しかし、入込人数は以前の8割強である。
都市型ホテル（スタッフ）	お客様の様子	・デスティネーションキャンペーンが始まり、駅前でも様々なイベントが行われている。イベントごとに大きな流れができており、客も多いようで、ホテルとしては宿泊とレストランはますますである。しかし、宴会需要については逆にこの期間を避けるような傾向もあり、全部が全部上向きではない。売上としては変わらない。

	都市型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・消費税増税が決定してから、特にデパート地下の惣菜部門とレストラン利用客の動きが悪くなっており、利用人員の減少と単価の下落が目立つ。それに加えて、大手ホテルの食品表示問題の影響で客のホテルを見る目が厳しくなっており、「お宅は大丈夫ですか」とも聞かれる。
	通信会社（営業担当）	お客様の様子	・景況感は良くなっているが、自然災害の影響で野菜等の価格が高騰しており、消費者の嘆きの声が聞こえる。また、求職数は伸びているものの賃金に変化はなく、3か月前と同様である。
	通信会社（営業担当）	お客様の様子	・消費税増税が決定され、各種物価も徐々に上がっている。アベノミクス効果で景気が改善しているようにはみえるが、底上げはされていない。
	通信会社（営業担当）	お客様の様子	・顧客の設備投資意欲並びに購買意欲に変化はみられない。
	通信会社（営業担当）	お客様の様子	・客との商談からは好況感はうかがえない。報道にあるような好況の感覚も全くない。消費税増税前の高額商材の前倒し消費はあるものの、所得の伸びは心配さえないところが多い。
	通信会社（営業担当）	販売量の動き	・新規加入及び解約の数が3か月前と比べほとんど変わらず、動きがみられない。
	観光名所（職員）	来客数の動き	・台風や週末の天候不良等で来客数が伸びていない。
	美容室（経営者）	来客数の動き	・来客数は前年の同時期と同じような水準になってきている。
	設計事務所（経営者）	お客様の様子	・住宅関連の仕事がほとんど変わらない状況なので、良くなったとか悪くなったといったことはない。
やや悪くなっている	商店街（代表者）	来客数の動き	・商店街は人も車もおらず、閑散としている。
	一般小売店〔スポーツ用品〕（経営者）	来客数の動き	・中心商店街の土日の人出は最近特に少なくなっている。店頭販売も下がっているため外商を強化しているが、外商は利益率の低下や売掛金の発生などリスクが高い。
	一般小売店〔医薬品〕（経営者）	単価の動き	・10月の月間売上としては、震災以来最も落ち込んでいる。これは来客数の減少というより、客単価の落ち込みによるものである。客単価の下落は大口客の来店が少なくなっているということではなく、客の節約意識が一律に強くなっているためとみられる。店頭での接客において、そのような客の様子が見受けられる。商品の価格に敏感で、最小単位の購入を希望されることが多い。
	百貨店（総務担当）	販売量の動き	・天候と件等があるなかで、実際の販売高という面では前年に届かない部分がみられる。
	百貨店（買付担当）	販売量の動き	・復興需要の反動が大きく、今年1年は苦戦傾向にある。
	百貨店（経営者）	販売量の動き	・10月1日の消費税増税の発表後、急激に消費マインドが低下したのか、すべての分野で売上トレンドが下降した。来客数、買上点数、1品単価、1客単価などにおいて前年同月比、前月比を下回っている。
	百貨店（経営者）	来客数の動き	・ここ数年、来客数が前年を下回り続け、回復の兆しがみえない。当月については更に落ち込みが大きくなっている。
	スーパー（店長）	それ以外	・特売価格、販促を強化し競合店対策を実施しているため、売上、来客数は既存店ベースで前年を上回っているが、円安による仕入原価の上昇、公共料金の値上げによるコスト増が大きく、経営的には厳しくなっている。
	コンビニ（経営者）	来客数の動き	・人の動きが大分鈍くなっている。建設業界も当地域では大分落ち着いてきてしまったので、そういった意味では朝夕の客の動きがかなり鈍くなってきている。
	コンビニ（経営者）	お客様の様子	・先月近隣に24時間営業スーパーが開業した影響で、深夜の来客数が激減している。
	コンビニ（エリア担当）	単価の動き	・来客数も下降傾向が続いているが、買上点数の減少が著しい。
	コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・買物自体の頻度が少なくなっている。まとめ買いやセール品を優先して購入するなど、家計も支出効率を上げており、コンスタントに売上を作ることができていない実感はない。

コンビニ（店長）	来客数の動き	・今月は台風が例年より多く、天候の悪い日が多い分、来客数が悪くなっている。単価の悪いデフレの方向に逆戻りしつつあるようである。より単価の安い物にという志向が顕著になっている。
コンビニ（店長）	来客数の動き	・気温の低下と比例して来客数が下がっている。また、多少離れた場所にできた競合店の影響も少なからず受けている。しかし、来客数は減少しているが、単価は前年比で上がっているため大きなダメージにはなっていない。前年より購買力が上がっているようである。
衣料品専門店（経営者）	来客数の動き	・今月は大きな気温の変動や台風などの気候の影響が響いており、来客数が減少している。売上も3か月前に比べて落ちている。
乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・新機種を発売した割には、やや盛り上がり欠ける。また、3、4月に購入予定の客が増えてきている。
住関連専門店（経営者）	販売量の動き	・来客数が減少し、前年売上をクリアできない。
住関連専門店（経営者）	来客数の動き	・来年の消費税増税を控え、もう少し駆け込み需要があるのではないかと期待していたがそうでもなく、前月同様、動いているのは小物のみで金額の張る商品は販売不振である。
高級レストラン（経営者）	来客数の動き	・7月半ばあたりから急激に冷えてきており、非常に良くない。理由は分からないが、同業もあまり良くないようである。
高級レストラン（支配人）	来客数の動き	・諸々の値上げにより、所得の増えない一般庶民は使えるお金が確実に減っている。
高級レストラン（支配人）	来客数の動き	・北東北では急速な寒の入りに加え、大雨や台風などがあり、観光や学会、各種大会等で来県されても、出先での積極的な購買が減少している。
一般レストラン（経営者）	お客様の様子	・今月は例年になく毎週末に台風がきていたので、農業関係の人は果樹が心配で外出するような気持ちにはならない人が多かったようである。建設関係の人は、緊急補正予算が出たらしく、休む暇なく仕事に追われており、外出に出るような気持ちにならなかったようである。
観光型旅館（経営者）	来客数の動き	・10月後半は紅葉期で本来は観光地としてはオンシーズンであるが、観光スポットのにぎわいも例年より少ないようである。また、宿泊に関しても週末以外は空室が目立つ。お金のかかる宿泊よりも日帰り観光にシフトしているようである。11月前半も予約が伸び悩んでいる。
観光型旅館（スタッフ）	単価の動き	・単価が下がっているのに、稼働が上がっても売上が伸びてこない。稼働が上がると経費も比例して上がっていく構造なので、現状の単価では稼働の上昇により収益が圧迫されている状態である。
都市型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・被災地の震災特需が終わり、来客数、問い合わせ数共に震災前の水準に戻っている。来月以降の問い合わせも、前年同時期をかなり下回っている。
都市型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・宿泊、宴会、レストランのすべてにおいて来客数の減少がみられ、予算が達成できなかった。年末にかけて散財するためか、特に夜のレストラン利用が減っている。二度の台風の影響も大きい。
タクシー運転手 タクシー運転手	お客様の様子 来客数の動き	・乗り控えが非常に目立ってきている。 ・夜間の乗客は相変わらず少なく、今月は前年を下回っている。ただ、大企業のみではあるが、タクシーチケットを利用する客が多少増えてきている。
テーマパーク（職員）	単価の動き	・消費税増税の発表から単価の伸びの勢いがなくなっている。さらに、台風などの自然災害により客足が鈍くなっている。
遊園地（経営者）	来客数の動き	・消費に力強さがみられない。また、台風を始め週末3回が悪天候となり、前年を20%以上下回っている。7月以降は天候要因もあり、前年を下回る状態が続いている。

	悪く なっている	一般小売店〔医薬品〕（経営者）	来客数の動き	・10月は地元プロ野球球団のリーグ優勝と県知事選があった。そういうときは繁華街には人はこないということがいわれているが、そのとおりになっている。金曜、土曜、日曜も試合がある日は街から人がいなくなってしまう。今回は、居酒屋や特にバーから客が1人も入らないという声が聞かれる。そういったことで来客数が極端に少なくなっている。
		百貨店（売場担当）	来客数の動き	・10月に入り比較的前半は気温が高かったことも影響し、秋冬物が不振である。重衣料などの比較的高額な商品の動きはまずまずだが、軽衣料の動きは鈍い。顧客数は変わらないが、フリー客は減少している。顧客は重衣料など的高額品を早い時期に購入するため、当然重衣料売上は順調である。フリー客減の一因として、同地区のファッションビルオープンが大きく影響している。当社は今月リモデルオープンをし、大きく伸長するはずだったにもかかわらず、思った以上に来客数が上がらず、大苦戦することとなった。それとも、新ブランドの魅力がなく、客の取り込みに失敗、動員出来なかったかである。
		衣料品専門店（経営者）	来客数の動き	・ようやく冬物の準備を始めたようだが、客足が少ない。
		衣料品専門店（経営者）	来客数の動き	・秋物本番の時期だが、日中の暖かさで秋物が売れない。例年に比べて来客数も少ない。
		自動車備品販売店（経営者）	販売量の動き	・売上は月を追うごとに右下がりになっている。
		一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・とにかく人も来ないし売上も伸びていない。今月は特にひどい状況である。ただ、今月は10周年記念ということで、イベントを開催しており、それで何とか吹き返している。それがなければ売上は相当悪い。
		都市型ホテル（スタッフ）	販売量の動き	・不振の宿泊、レストラン、婚礼部門を支えてきた宴会部門も、ここにきて息切れしている。例年売上が期待できる月だが、予算に対して2割減の予想である。
	美容室（経営者）	来客数の動き	・これからの季節、数年前までは七五三の着付けで忙しかった。しかし、安く着付けが出来て撮影できる店が増えたためか、今年はそうした着付けの予約もない。	
企業 動向 関連 (東北)	良く なっている	-	-	-
	やや良く なっている	食料品製造業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・毎月の売上金額がようやく目標に達するようになってきている。
		一般機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・自動車部品は、国内需要については計画を上回る水準で受注が入ってきており、輸出についても比較的良好な環境にある。
		建設業（従業員）	受注量や販売量の動き	・造成、まちづくり関連などの工事の発注・受注が拡大基調にある。
		建設業（企画担当）	受注価格や販売価格の動き	・会社の対応能力には限界があるため、選別受注に向かわざるを得ない。
		輸送業（経営者）	受注量や販売量の動き	・物量の動きが上期に比較して増加傾向にある。
		経営コンサルタント	取引先の様子	・地元プロ野球球団の優勝セール等で幅広い業態が活況を呈している。
		司法書士	取引先の様子	・消費税増税関連での住宅着工に関する登記の受注が増えている。
	その他非製造業〔食料品卸売業〕（経営者）	受注量や販売量の動き	・首都圏向けの出荷が好調である。特にスーパーからの注文が多く、家庭での消費が伸びているようである。県内は地元プロ野球球団の優勝効果がみられるものの、限定的である。	
変わらない		食料品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・今月の数字を見る限り、2、3か月前より悪くなっている。牛タン人気はあると思うのだが、その原因はまだ分析できておらず、現在は世の中の景気がそのようにさせているのかというあいまいなところしか分かっていない。
		食料品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・週末の台風接近などにより、売上は苦戦している。
		食料品製造業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・販売量は前年割れの状態が続いている。
		出版・印刷・同関連産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・この半年、それほど景気が良くなっているとはいえない。

	出版・印刷・同 関連産業（経理 担当）	競争相手の様子	・競争相手の話を聞くと、景気が良くなっているという所と悪くなっているという所が入り乱れている。全体的には横ばいの状況である。	
	土石製品製造販 売（従業員）	受注価格や販売 価格の動き	・運送に掛かるガソリン代や工場の稼働による電気代などの高騰で受注価格を値上げする考えを取引先に説明した。しかし、取引業者からはそうした値上げでこの先も同じように仕事はできないとの苦情が多々ある。	
	電気機械器具製 造業（営業担 当）	取引先の様子	・モノづくり中小企業の受注状況はよくないところが多い。受注があるところでも利益率が非常に低い。	
	電気機械器具製 造業（企画担 当）	受注量や販売量 の動き	・3か月前と比べてほとんど変化が無い。業界全体で考えても、新製品は出るが生産数の大きな変化には繋がっていない。	
	建設業（経営 者）	受注量や販売量 の動き	・消費税増税の影響か、前月と同様に受注が続いている。増税前というムード的なこともあるとみている。	
	通信業（営業担 当）	受注量や販売量 の動き	・受注は順調に伸びている。	
	通信業（営業担 当）	取引先の様子	・取引先の状況に変化はみられない。	
	金融業（営業担 当）	取引先の様子	・メガソーラー関連は好調である。個人投資家の動きはやや鈍い。	
	金融業（広報担 当）	取引先の様子	・特段の動きがない。	
	広告代理店（経 営者）	受注価格や販売 価格の動き	・金融機関の全種類リーフ等の再見積があり、結果、価格の引き下げになっている。	
	公認会計士	取引先の様子	・ある程度の利益を維持しているクライアントが多いが、その数が増加しているということはない。2～3か月前と同じくらいである。	
	コピーサービス 業（経営者）	受注量や販売量 の動き	・コピーサービスの状態は仕事の量が激減している状況である。特に建築図面、土木図面といった関連のものは、以前に比べれば相当の割合で減少している。	
	その他企業〔企 画業〕（経営 者）	取引先の様子	・取引先の住宅会社の景況が良いところで推移している。しかし、景況は良いものの、供給数に限りがある地元工務店なので、それ以上の受注には対応できないという不安もはらんでいる。	
	その他企業〔工 場施設管理〕 （従業員）	取引先の様子	・不良品が多発して問題になっている。	
やや悪く なっている	農林水産業（従 業者）	受注価格や販売 価格の動き	・9月に出荷したももの精算書が農協から届いた。期待したような単価ではなく、震災前の8割程度であった。また、米の自営出荷分が前年より15%ほど下がっている。	
	農林水産業（従 業者）	それ以外	・長く続いた残暑や台風といった天候不順により、作物の生育が悪く、収量が少なくなっている。	
	繊維工業（経営 者）	取引先の様子	・秋物のトップシーズンに入ったが、9、10月と台風や雨の日が続く、店頭売行きが予想以上に悪くなっている。	
	木材木製品製造 業（経営者）	受注価格や販売 価格の動き	・住宅部材の需給バランスが崩れ、販売単価の低下により採算が悪化している。	
	広告業協会（役 員）	それ以外	・地元プロ野球球団の勝利による効果は広告業界には少ない。この時期はイベントも少なく、各社は非常に苦戦している。	
悪く なっている	その他非製造業 〔食料品卸売 業〕（経営者）	取引先の様子	・仕入先や同業者においても、2、3か月前よりもだんだん悪くなってきていると話すが非常に多い。	
雇用 関連 (東北)	良く なっている			
	やや良く なっている	新聞社〔求人広 告〕（担当者）	求人数の動き	・地元プロ野球球団のリーグ優勝セールや日本シリーズへの期待感などが流通を中心に続いており、やや上向き傾向にある。
		新聞社〔求人広 告〕（担当者）	採用者数の動き	・弊社では今秋、数年振りに中途応募者2名を採用した。
		職業安定所（職 員）	求人数の動き	・新規求人数は30か月連続で前年同月比で増加している。一方、新規求職者数は2か月連続で前年同月比で減少している。
		職業安定所（職 員）	求人数の動き	・求人数が前年比で増加を続けており、有効求人倍率も少しずつ好転している。求人の増加に合わせて在職中の求職が増加している。まとまった企業整備もない。

	職業安定所（職員）	求人数の動き	・求人は増加しているが、かなりの割合をパート求人が占めている。確かに景気は良くなっているが、現在公表されている求人倍率ほどは回復していない。
	職業安定所（職員）	求人数の動き	・小売業で来年3月の新店舗オープニングスタッフとして480人の求人提出があった。
	民間職業紹介機関（職員）	周辺企業の様子	・最近、自動車関連及び携帯電話関連の求人が増加している。
変わらない	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・10月の中旬に、大卒の新卒採用について合同会社説明会のイベントがあったが、50社ほどの企業が参加していた。求人意欲の高さがうかがえる。
	アウトソーシング企業（社員）	それ以外	・特に大きな変化もなく例年どおりである。
	新聞社〔求人広告〕（担当者）	周辺企業の様子	・良い話は首都圏の大企業のみである。前年に比べ広告出稿量に増減は無く、ほぼ昨年並みで、地方に景気の良さは特にうかがえない。
	職業安定所（職員）	求人数の動き	・業種に多少のばらつきはあるものの、求人数は高水準で推移している。
	職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数、有効求人数共にこの1年間はほぼ同数で推移している。
	職業安定所（職員）	求人数の動き	・求人数は引き続き高水準で推移しているが、求職者数が減少している傾向が見受けられる。その結果、充足がなかなか伸びない状況になっている。
やや悪くなっている	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・派遣の依頼件数に対する成約の決定率は依然低迷し20%を下回っている。今期累計も24%台まで低下し、営業利益が前年比5割超ダウンしている。
悪くなっている	-	-	-